

林業経営

林業再生

日時：平成26年12月13日（土） 10:00～12:00

講師：中原 丈夫（岐阜県林業経営者協会 会長）

概況



科目名 林業経営(林業再生)

講師 岐阜県林業経営者協会 会長 中原丈夫

大規模森林所有者は、地域の山づくり文化を継承する責務がある。21世紀は環境の時代といわれる中、報国の精神で山づくりに臨んでおり、その礎は、280年の歴史に培われた山林経営にあるとのこと。

中原家の山林経営は、収穫時に如何に1本の収穫量を大きくすることができるかを考え、枝打ちと間伐を繰り返しながら樹高と直径の成長を促すことで、伐期80-90年の長伐期施業を行っている。日本の林業が国際競争にさらされるととき、世界的視野での林業経営を目指していると説明がありました。

特徴として

①「ゆるぎない施業体系」

280年の培われた経験と技術にもとづいた長伐期施業体系

②「高能率な生産ライン」

高性能林業機械を活用した長材のまま搬出する低コスト・高能率な生産システム

③「高密度に整備された作業道」

林業の基本は、山に行くこと。山の管理・木材搬出等すべての基盤は作業道が命。3つの融合より、付加価値の高い木材の生産が可能で、特殊注文材や注文材への迅速な対応により高い収益の確保が可能となっている。

特に、林業経営の間伐には

①「再生間伐」 ... 過密林・荒廃林の適正林への転換

②「保育間伐」 ... 優良材としての成長を促す間伐

③「収穫間伐」 ... 建築材およびカスケード利用が可能

があり、中原林業では立木本数は 40 年生時で約 1,000 本/ha、60 年生時で約 700 本/ha、90 年生時で 400 本/ha となるようにしている。

講義の最後に、21 世紀になり木材生産のための山づくりから、多面的機能を高いレベルで維持することが最大の目的となった。我国で唯一自給率 100%可能な資源は「水」であり、水資源を安定的に保つのは緑豊かな森林に他ならない。木を植えることに特化した長期にわたる林業政策が今、日本の森林の最大の危機を招いており、自然の力に身をゆだね循環可能な林業経営から培ったノウハウを荒廃林で覆われた日本の林業に提供することこそ「中原林業の使命」と考える。